



社団法人 日本建設機械化協会 東北支部 支部たより

とろろく

Winter 2012

Vol.162



平成23年度 除雪講習会を開催

東日本大震災における機械設備の被災報告

情報化施工 (ICT) ゼミナール開催

目次

巻頭言 年頭にあたり	1
(社)日本建設機械化協会 東北支部 支部長 (東北大学 教授) 鈴木 基行	
平成23年度 除雪講習会を開催	2
施工部会長 稲村 正弘	
国土交通省コーナー 東日本大震災における機械設備の被災報告	6
東北地方整備局 企画部 施工企画課 機械設備係	
特殊現場研修会報告 津軽ダム本体建設(第1期)工事	10
建設部会長 佐野 真	
エッセー 大震災に思う	15
前企画部会長 菅原 次郎	
情報化施工(建設ICT)ゼミナールを開催しました	18
技術部会長 深堀 哲男	
安全コーナー 安全体感を実施せよ！！	
前田建設工業(株) 東北支店 馬場 操	
平成23年度 第4回建設施工研修会(技術映画会)開催	22
支部行事・会員消息	23

表紙写真：富士山頂からの御来光

平成24年度 建設機械施工技術検定試験申込みのご案内

平成24年度1・2級建設機械施工技術検定試験を実施しますので、建設機械操作施工に従事している技術者の皆さんは、資格取得を目指して下さい。

この資格は施工技術の向上を図るため、建設事業の建設機械施工に係わる技術力や必要な知識を検定するもので、高い評価が得られ、ご本人と所属の企業にとって大いに役立ちます。

申込みに必要な用紙等の販売は平成24年2月1日(水)から当協会東北支部や(社)東北建設協会本部・支所で行います。価格は次のとおりです。

「1級受験の手引」 1部 600円 (別途送料250円)

「2級受験の手引」 1部 500円 (別途送料250円)

受験申込み受付期間は平成24年3月9日(金)から4月6日(金)までです、お早めにご準備下さい。当協会のパンフレットやホームページにも詳しく掲載されております。ご利用下さい。

年頭にあたり

(社)日本建設機械化協会 東北支部 支部長 (東北大学 教授) 鈴木 基行



会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年3月11日14時46分頃マグニチュード9.0というわが国では史上最大規模の地震が発生し、それに伴う大津波が岩手、宮城、福島の前日本太平洋岸を襲い、約2万人の死者・行方不明者を出す大惨事が生じました。関東はもとより関西でも大きな揺れを記録し、被害は東北3県に留まらず茨城、千葉県など関東地方でも液状化などの深刻な被害が多数出ました。会員の中にも地震や津波の被害を受けられた方もおられると思います。心からお見舞い申し上げます。

当協会東北支部では3月14日に災害対策本部を設置し、3月16日以降東北地方整備局管内の支部会員の協力を得て機械設備緊急点検体制を構築、作業用車両の緊急認定申請書を支部長名で交付し資機材の現地への迅速化を図りました。青木あすなろ建設よりの水陸両用ブルドーザー保有情報を整備局に提供しました。同じく3月16日には整備局の要請で中部地方整備局派遣の排水ポンプ車3台、照明車2台を仙台空港エリアに配備・稼働運転に協力しました。3月20日には防衛省陸上幕僚監部装備部施設課よりバックホーのグラブの保有状況調査要請を受け、23日にはリストを作成し整備局および陸上自衛隊に提供しました。また、津波被災冠水地域の遺体捜索活動支援のため、当支部職員4名が排水ポンプ車、最適配備箇所調査を実施しました。3月30日には災害復旧・復興に必要な自走式リサイクル機械、鉄筋切断機などの保有台数や所有者などの調査を行い、整備局および防衛省へ情報提供しました。4月17日には災害対策緊急応援協定を締結している(株)三洋テクニクスからトラックロードの無償貸与提供の申し込みを受け、整備局に情報提供しました。4月26日には(株)エム・テックからトラック2台、バックホー2台の協力申し出があり、整備局へ情報提供しました。この他にも支部会員から車両や資材の提供の申し出がありました。7月29日には、東北地方整備局から震災復興に功績があったとして、東北支部が感謝状をいただきました。会員の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

震災から10ヶ月が過ぎようとしております。今回の大震災を受けて宮城、岩手、福島の3県および被災を受けた関係各市町村で復興計画が検討されております。既往の地震による被害は橋梁や堤防など地図上では点としてしか認識されない箇所の被害にとどまっていたのですが、今回の津波被害は広範囲な面的被害をもたらし、まちや地域社会全体の崩壊をもたらした点が大きな特徴です。人命・財産はもとより、まちや地域全体の安全を如何に確保するかが問われています。個々の施設の耐震化だけでは問題は解決しません。まちにより地形や地盤、人口構成、産業構造、歴史・文化など制約条件が異なり、一つのモデルの提示だけでは問題は解決しません。また、単に高台移転を提示するだけではなく、復興期間終了10年後、20年後の地域形成、産業復興、農・水産業などの後継者問題、雇用の確保、教育環境の整備、インフラ整備、など将来の地域やまちのあり方について地域住民の合意なくしては真の復興はできないでしょう。復興計画策定や今後10年はかかると思われる計画の実施にあたり、行政に携わる方々のみならず各種分野の技術者・研究者の力の結集が必要であることは論を待たないでしょう。

今年、当支部も設立60周年を迎えます。記念誌の刊行、記念講演会（5月17日支部総会において今村文彦東北大学教授（津波工学））の開催などを予定しております。

会員の皆様のご多幸とご活躍を祈念いたします。



平成23年度 除雪講習会を開催



施工部会長 稲村 正弘

はじめに

平成23年度除雪講習会を例年通り東北各地10カ所にて12回開催しました。

今年度の開催に際し、当初予定していた宮古市会場が東日本大震災の影響を受け会場の使用が出来ないとのことで、奥州市に変更し、昨年と同様に12回開催することができました。

本除雪講習会は国土交通省東北地方整備局をはじめ、諸官公庁のご指導により道路除雪を主体とした除雪作業の安全確保、円滑な除雪作業を遂行するための準備講習会として、道路除雪を担当される官公庁および建設業、除雪機械整備業等の関係者を対象に実施しております。

今年度の受講者数は2,661名で、昨年度より約5%増となりました。参加機関業種別の内訳は、国・県・市町村の関係者が約12%、除雪業者が約86%であり、職種別ではオペレータ（助手含む）が約76%と最も多く、現場管理担当者および経営管理者が約12%、行政関係者が約6%、その他6%でした。

本除雪講習会は、CPDプログラムに承認されており、必要な方には、当日会場で受講証明書を発行しました。

1. 講習会の目的

道路除雪作業従事者を対象に、除雪工法・除雪作業の安全対策・除雪機械の取り扱いの要点を修得していただき、除雪の効率化と除雪作業の安全、冬期道路交通の円滑な確保の遂行に資するものです。

2. 受講対象者

国、県、市町村、公社等が管理する道路の除雪作業に従事する担当者およびオペレータ、整備員等。



平成23年度 除雪講習会風景（奥州会場）

3. 講習開催日および受講者数

除雪講習会開催日および会場、受講者数は下表の通りです。

開催日	会場	受講者数
9月29日(木)	青森市 ホテルクラウンパレス青森	253
9月30日(金)	弘前市 弘前文化センター	175
10月6日(木)	新庄市 新庄市民プラザ	181
10月7日(金)	天童市 べにばなスポーツパーク	239
10月12日(水)	秋田市 秋田テルサ	239
10月13日(木)	横手市 秋田ふるさと村	358
10月18日(火)	会津若松市 会津アピオ	189
10月20日(木)	奥州市 奥州市文化会館	190
10月21日(金)	奥州市 奥州市文化会館	138
10月25日(火)	盛岡市 岩手県民情報交流センター	261
10月26日(水)	盛岡市 岩手県民情報交流センター	237
11月4日(金)	仙台市 フォレスト仙台	201
計		2661

4. 講習内容および講師等

除雪講習会では「平成23年度 道路除雪の手引き」による説明の補助資料として、パソコンによるプレゼンテーションにより動画も交え説明を行いました。

講習内容・時間割・講師については下表の通りです。

講習内容	時間割	講師
あいさつ	10:00~10:05	当協会東北支部長（代理）
国の除雪の取り組みについて	10:05~10:25	東北地方整備局 開催地の各河川国道事務所等担当官
県の除雪の取り組みについて	10:25~10:45	開催地の各県道路管理課等の除雪担当官
施工方法と作業のポイントについて （作業VTR含む）	10:45~12:00	当協会会員の除雪担当技術者
（昼食休憩）	12:00~13:00	
除雪作業の安全対策について （事故とヒヤリ・ハットの事例）	13:00~13:50	当協会会員の除雪担当技術者
（休憩）	13:50~14:00	
冬の交通安全	14:00~14:40	各地域の警察担当官
除雪機械の取り扱いについて （共通編および各機械編）	14:40~15:55	当協会会員の除雪機械担当技術者
閉会および受講証交付	15:55~16:10	当協会事務局

5. 除雪講習会テキスト「道路除雪の手引き（平成23年度改訂版）」

講習会テキストは下記の通りで、附属資料を含め全201ページの構成となっております。

- 第一章 冬季における道路交通の確保
- 第二章 冬の気象と雪
- 第三章 除雪計画
- 第四章 除雪施工方法と作業のポイント
- 第五章 歩道除雪
- 第六章 路面凍結処理
- 第七章 除雪作業の管理
- 第八章 除雪機械の取り扱い
- 第九章 安全対策
- 附属資料 運行前点検表様式



6. 平成23年度除雪講習会の協力会社

除雪講習会の講師として、東北地方の道路除雪に関し豊富な実績を持つ下記会社より協力をいただき実施いたしました。

講習内容	会場	協力会社
除雪作業の安全対策について	青森、弘前会場	大管工業(株)
	新庄会場	白岩土木建築(株)
	天童会場	山形建設(株)
	秋田、横手会場	万六建設(株)
	会津若松会場	三立道路(株)
	奥州会場	————— (当協会事務局)
	盛岡会場	菱和建设(株)
	仙台会場	(株)エス・ケイ・デイ
除雪機械の取り扱いについて	青森、弘前会場	コマツ建機販売(株) 東北カンパニー
	新庄、山形会場	日立建機(株)東日本事業部 東北支店
	秋田、横手会場	キャタピラー東北(株)
	会津若松会場	岩崎工業(株)
	奥州会場	(株)K C M J 東北支社
	奥州会場	新潟トランス(株)
	盛岡会場	範多機械(株)
	盛岡会場	(株)日本除雪機製作所
仙台会場	T C M(株) 東北支社	

7. 近年の除雪講習会の状況

近年（平成19年～23年）の除雪講習会状況を下表に取りまとめました。

(1) 受講者数・会場数

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
受講者数（名）	2711	2458	2271	2530	2661
会場数	10	11	11	12	12

(2) 業種別受講者割合（％）

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
国	1.7	1.3	0.8	2.1	1.4
県	1.4	1.6	1.4	2.5	1.4
市町村	7.9	7.2	8.2	8.3	9.1
除雪業者	88.1	88.4	85.8	85.4	86.2
その他	0.9	1.5	3.8	1.7	1.9

8. おわりに

東日本大震災があった中で今年度も昨年同様、東北6県10会場で12回計画し実施することが出来ました。

受講者の数は2661名で昨年度より131名増と予想より多くなりましたが、例年の状況を踏まえ余裕のある会場を選定したことにより、各会場に余裕が出来て受講者はほぼ希望通りの会場で受講することが出来ました。

講習会ツール（道路除雪の手引き、パワーポイント等）については、今年度も施工部会委員のご協力を得て、より分かり易く新しい内容へと編集しました。今後も皆様の意向に沿った除雪講習会にすべく改善して参ります。

この除雪講習会が除雪作業の効率化と、作業の安全等について寄与できれば幸いです。

最後に本除雪講習会の実施にあたり、ご指導とご協力を賜りました東北地方整備局、東北の各県庁、各警察本部ならびに警察署の皆様方に謝意を表し報告とさせていただきます。



平成23年度 除雪講習会風景（仙台会場）

東日本大震災における機械設備の被災報告

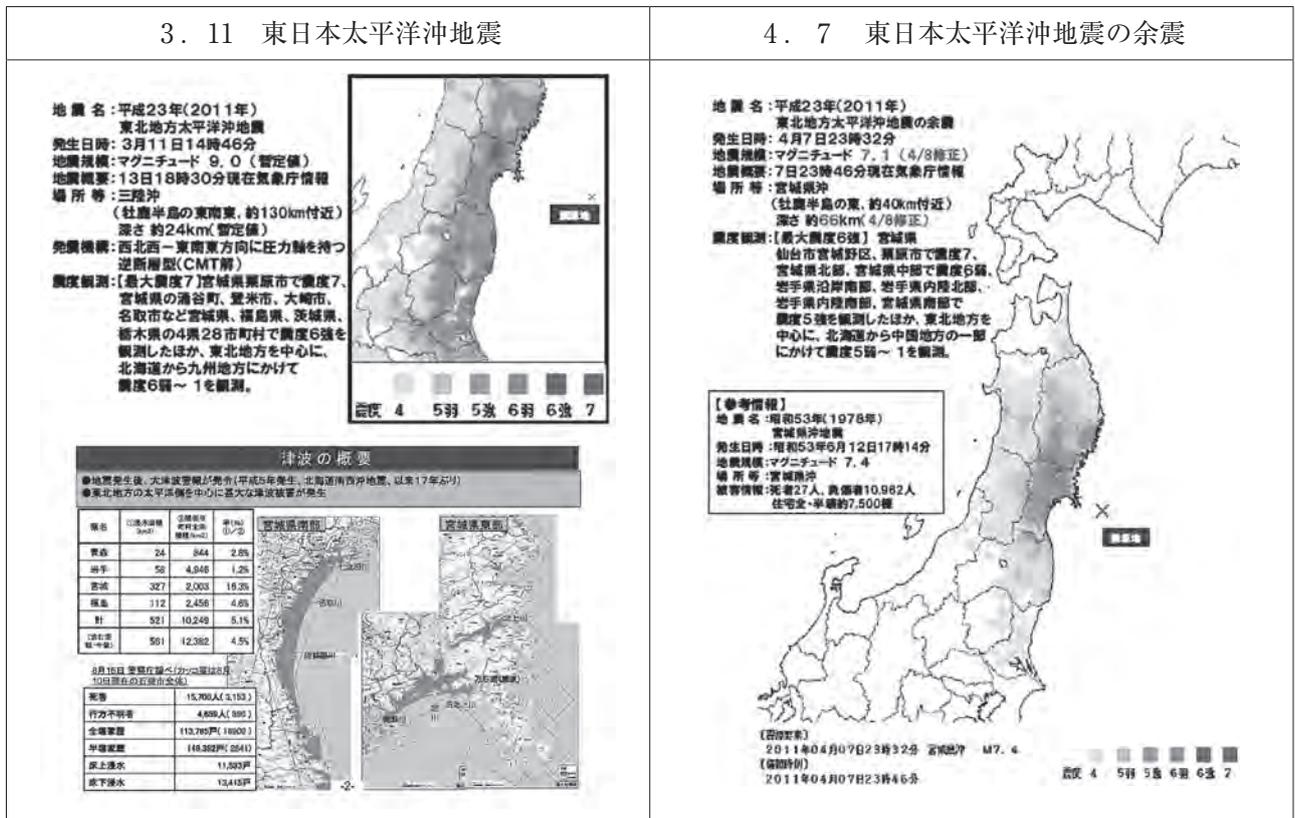
東北地方整備局 企画部 施工企画課 機械設備係

1. はじめに

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震と地震に伴う津波により、東北地方を中心に大きな被災をもたらした「東日本大震災」では、東北地方整備局管内の多くの管理施設が被害を受けた。

この未曾有の災害発生から早10ヶ月経過し、直轄管理施設では応急復旧を終え、今後本格復旧のための準備を進めている。中でも、河川構造物における機械設備は、直轄施設でも被災による損傷復旧が出水期までに完了不可能な施設もある状況にある。ここでは、その被災状況を報告するものである。

2. 東北地方太平洋沖地震の概要



3. 東北地方整備局が管理する区間での各河川毎の被害箇所数

阿武隈川	(宮城県・福島県)	137箇所 (内宮城県 58箇所)
名取川	(宮城県)	31箇所
広瀬川	(宮城県)	4箇所
鳴瀬川	(宮城県)	193箇所
吉田川	(宮城県)	171箇所
江合川	(宮城県)	131箇所
旧北上川	(宮城県)	153箇所
北上川	(宮城県・岩手県)	362箇所 (内宮城県213箇所)
馬淵川	(青森県)	13箇所

4. 機械設備の損傷事例

地震における損傷個所としては、本体構造物（扉体・重構造戸当り）の損傷は見受けられず、軽構造戸当りや開度測定用メッセンジャーワイヤーに損傷が発生している。

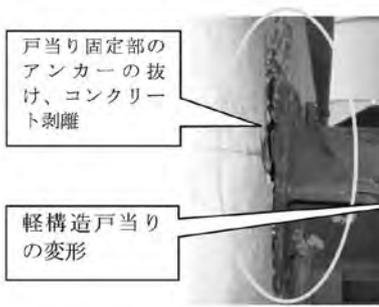
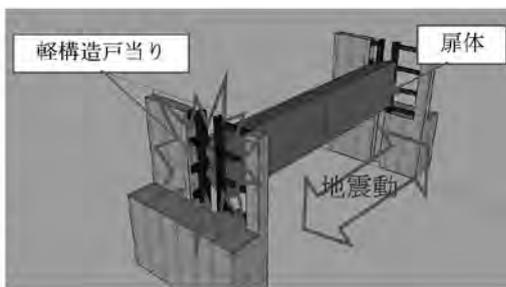
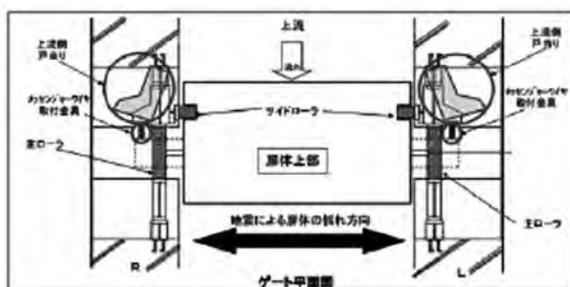
また、津波による損傷は、スイング構造のゲートにおける油圧シリンダチューブの損傷や機側操作盤や油圧ユニットの浸水、予備発電機の水没・流出が発生し、シェル構造ローラゲートの堰においては扉体が押し上げられる事例も発生した。また、今回報告の対象としていないが、躯体構造から流出した構造物も発生している。

◎津波の河川遡上における水門越流状況



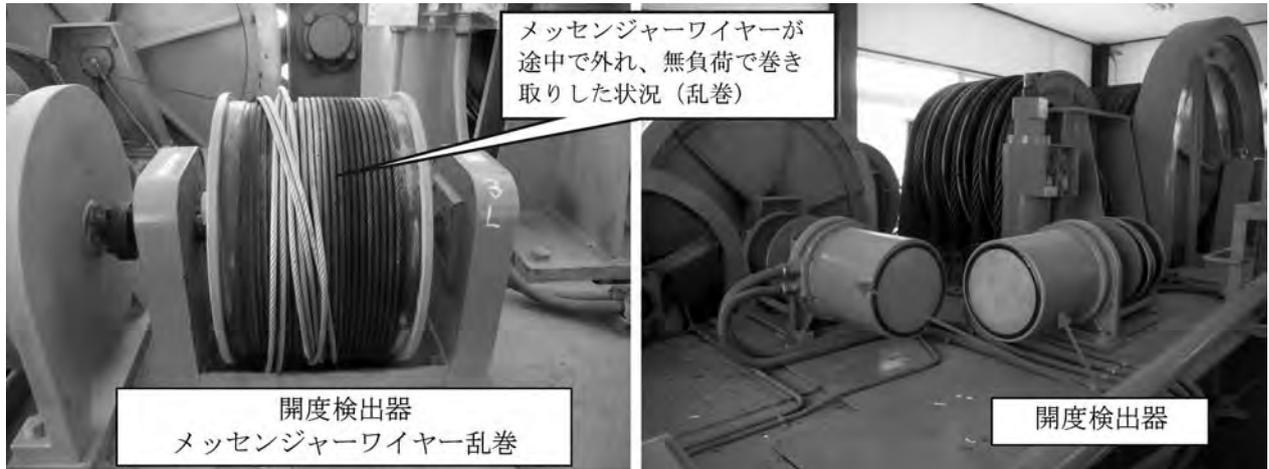
① 軽構造戸当たりの損傷

河口部にある堰で、常時開状態である施設であるが、地震による被災により津波に対処すべく閉操作を実施したものの、閉塞できなかった事例



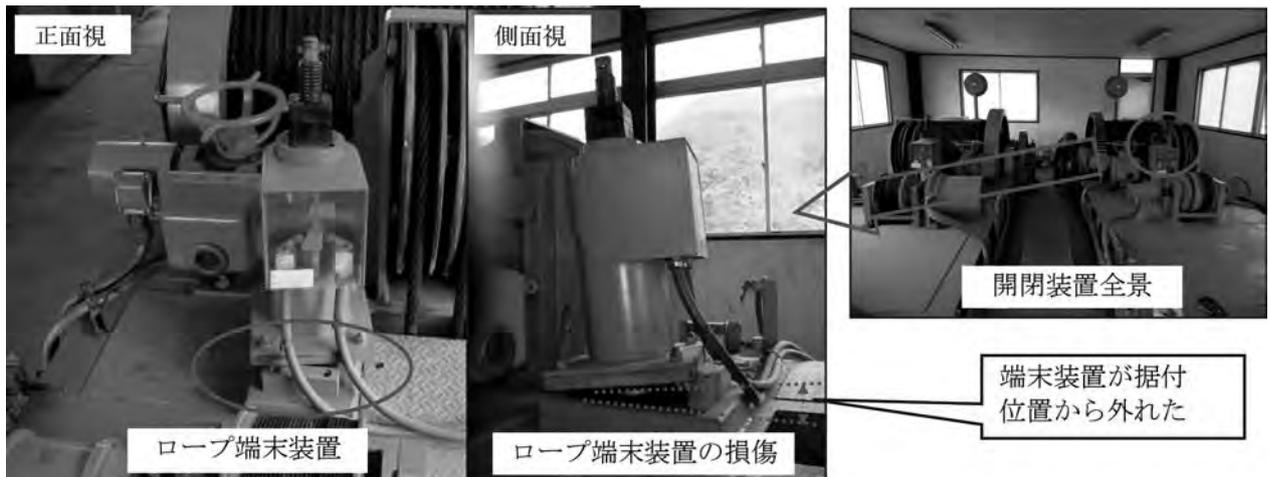
② 開度測定用メッセンジャーワイヤーの損傷

2モーター2ドラム式開閉装置にメッセンジャーワイヤー式開度計を使用している設備において、地震動によりメッセンジャーワイヤーの取付部が損傷し、外れたワイヤーロープを急激にドラムに巻き取ったため、開度演算器の故障とワイヤーロープが乱巻き状態となった事例



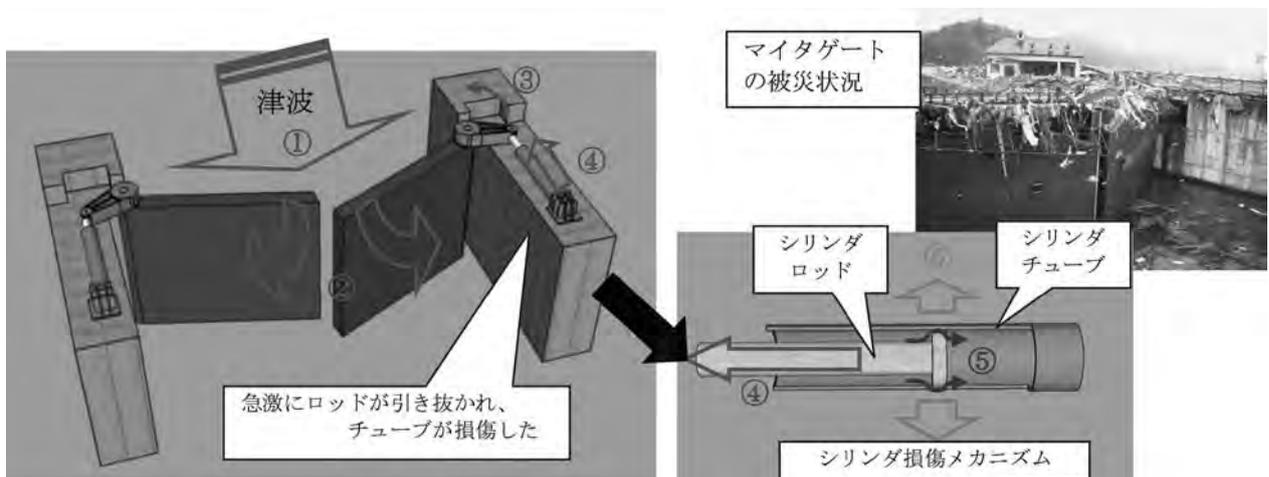
③ ロープ端末装置逸脱

地震動、又は津波により扉体が押し上げられ、反動によりワイヤーロープ端末に設置しているロープ端末装置が押し上げられ、据付位置から外れた事例



④ 油圧シリンダチューブ損傷

スイング方向に動作するゲートの油圧シリンダ開閉装置に、津波による過大な開閉力が加わり、シリンダチューブが膨らみ損傷した事例

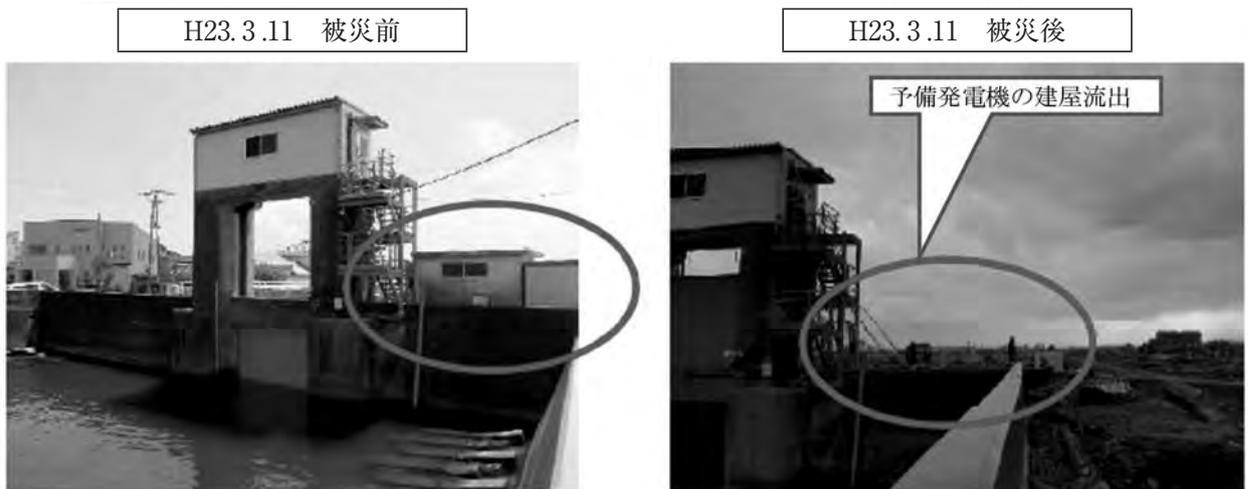


⑤ 機側操作盤・油圧ユニット浸水



堰柱内に格納している機側操作盤及び油圧ユニットでも、津波の越水により浸水し、浸水痕は全高までに至っていないものの、再使用できなくなった事例。

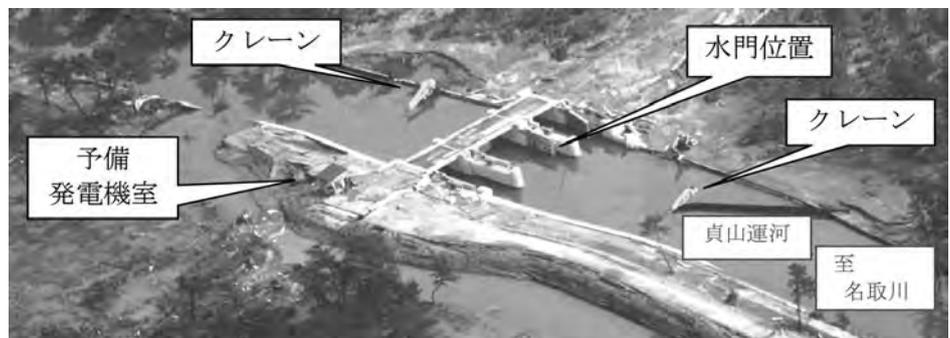
⑥ 予備発電機水没・流出



⑦ 工事施工中の被災

水門建設工事施工中に地震・津波により被災した事例

移動式クレーン2台が被災し、水門の油圧シリンダ式開閉装置が被災した。



4. おわりに

今回紹介した河川構造物の損傷事例は一部であり、青森河川国道事務所・仙台河川国道事務所・北上川下流河川事務所の各管内において多くの機械設備が損傷を受けている。このため、堤防高の変更や地盤沈下に対応した施設設計に加え、被災経験からの改善策を反映させながら、今後の復旧施工を実施していく予定である。

津軽ダム本体建設（第1期）工事

建設部会長 佐野 真

1. はじめに

当協会東北支部建設部会の活動の一環として、先進的な建設技術を学習するため、「津軽ダム本体建設（第1期）工事」の現場研修を平成23年10月18日（13：30～16：30）に実施しましたのでご報告いたします。

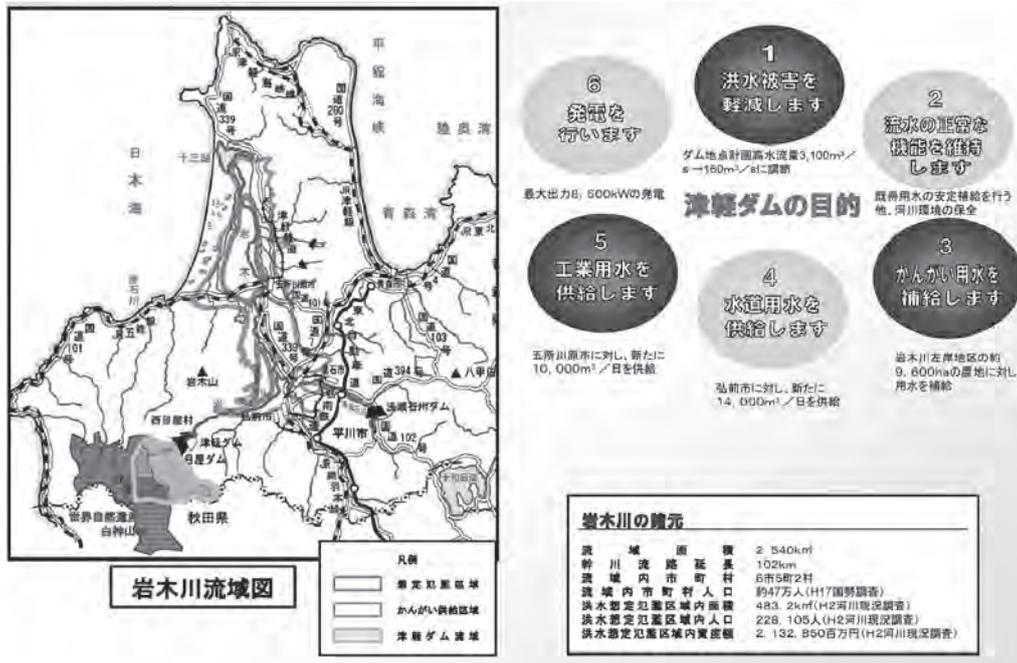


図-1 研修現場位置図

津軽ダム諸元

集水面積	172.0km ²
湛水面積	5.1km ²
総貯水容量	140,900千m ³
堤高	97.2m
堤頂長	342.0m
堤体積	717,000m ³
総事業費	1,620億円

2. 工事概要

昭和35年に完成した目屋ダムは、岩木川全体の治水安全度を高め、想定した洪水に対し十分な治水効果を発揮しましたが、当初計画した規模を超える洪水が相次ぎ、新たなダム建設を望む声が津軽地域で高まりました。

このような社会的な要請を受け、既設目屋ダムの直下流に津軽ダムが建設されることになりました。型式は目屋ダムと同じ重力式コンクリートダムで計画されました。

津軽ダムは、目屋ダムの目的である「洪水調節」「かんがい用水」「発電」に加え、「工業用水」「水道」「流

水の維持」を加えた計6つの目的を持つ多目的ダムとして建設されています。

以下に津軽ダム本体建設（第1期）工事の概要を示します。

工 事 名	津軽ダム本体建設（第1期）工事
発 注 者	国土交通省 東北地方整備局
工 期	平成20年10月7日～平成25年3月19日
施 工 者	間・西松 特定建設工事共同企業体
型 式	重力式コンクリートダム（多目的ダム）
主要工事数量 （1期工事分）	基礎掘削：741,000m ³ 、堤体コンクリート：495,660m ³ 、減勢工コンクリート：50,780m ³ 基礎処理工（コンソリ）：2,483m、基礎処理工（カーテン）：1,582m 骨材採取・製造・貯蔵・運搬：584,190 t
打 設 工 法	RCD工法、ELCM（低・高標高部）の併用
打 設 設 備	15.5 t 固定型ケーブルクレーン（2条）+4.5m ³ コンクリートバケット
進 捗 状 況	コンクリート打設量：14万m ³ （全体量の20%）～10月18日時点～

3. 転流工の工夫について

津軽ダムは、直上流に位置する目屋ダムの放流を妨げない形での施工が要求されることから、通常とは違った4段階の転流工が採用されています。（図-2）

- 【1次転流】河川中央部にコルゲートセル（φ6m）締切りを設置し、左岸河床部の施工を実施
- 【2次転流】左岸堤内仮配路完成後、河流を左岸側に切り替え、右岸河床部の施工を実施
- 【3次転流】右岸堤内仮排水路完成後、2条の堤内仮排水路に河流を切り替え、本体全面打設を開始
- 【4次転流】右岸側減勢工完了後、コルゲートセル締切りを完全撤去

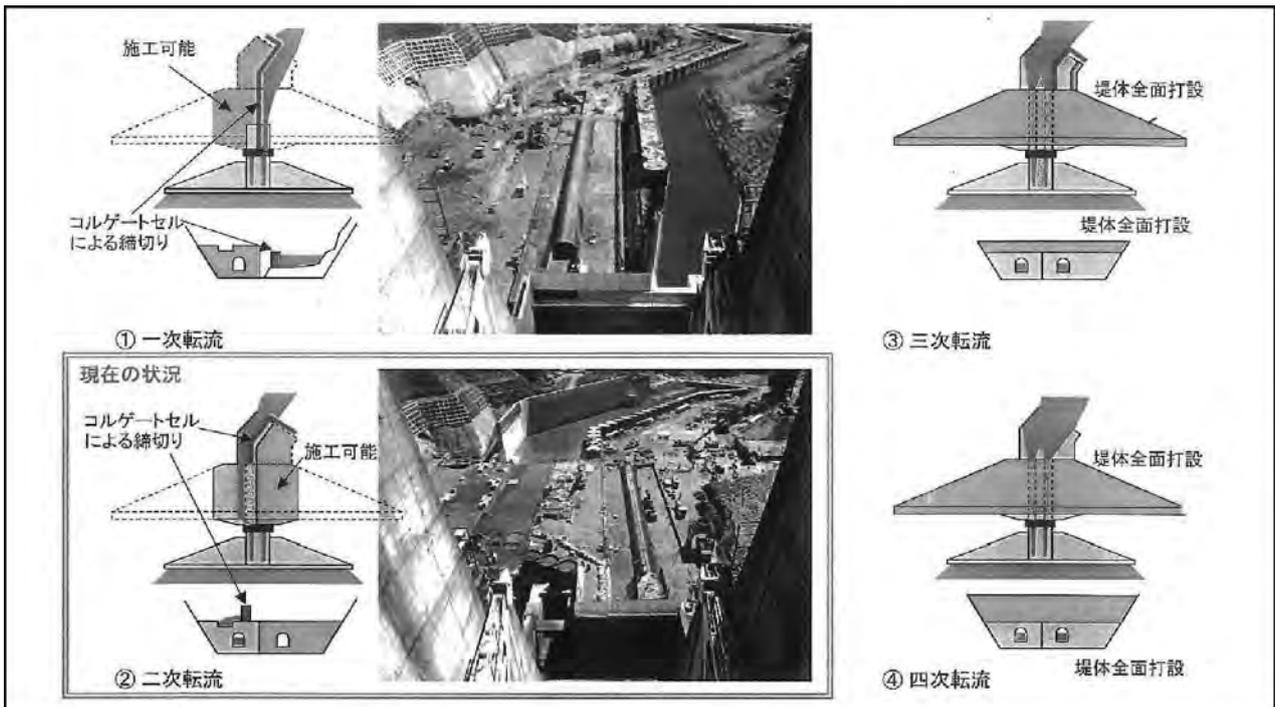


図-2 転流工の施工フロー

微粒分（モンモリロナイト含有）を除去し、コンクリートの品質を確保しています。

- ・粒形改善機（バーマック）の採用

ロッドミルで細骨材を製造した後、再度粒形改善機に投入することで、細骨材の実績率を高め、コンクリートのワーカビリティを改善しています。

- ・骨材貯蔵ビンの冷却

骨材貯蔵ビンの外周をシートで覆い、直射日光による骨材温度上昇を防止しています。また夏季においては貯蔵ビンに直接散水することで、さらに温度上昇を抑制しています。（写真－3）

- ・細骨材貯蔵ビンにブラスターを設置

細骨材貯蔵ビンにはブラスターを設置し、ビン内部に圧縮空気を噴出することで、細骨材のデッド分が残らないようにしています。（写真－4）

③ その他の設備

- ・固定型ケーブルクレーン（2条）

ダム本体のコンクリート打設設備として、15.5 t 吊固定型ケーブルクレーンを2条設置することで、打設能力の向上を図っています。（写真－5）

コンクリートは、バッチャープラントから12 t 積みダンプトラックにより右岸天端へ運搬され、直接4.5m³バケットに積み替えられ堤体上に運ばれます。

- ・ダムコンクリート運搬用ダンプトラックの工夫

ダムコンクリートを運搬するダンプトラックについては、あおりを大きくし荷台全体を覆うことで、コンクリートの乾燥や雨水の混入を防止し、コンクリートの品質を確保しています。（写真－6）

- ・工事用車両の洗車設備

ダム工事現場から県道への出入り口には、センサーで洗浄水が自動的に噴射される洗車設備が設置されています。運転手が車外に出ることなく洗車することが可能となり、大変便利な設備でした。（写真－7）



写真－2 骨材プラント全景



写真－3 骨材貯蔵ビンのシート養生



写真－4 ブラスター設置状況



写真－5 固定型ケーブルクレーン



写真－6 ダンプトラックの大型あおり



写真－7 自動洗車設備

5. ダム本体の打設状況

見学会当日は、ちょうど堤内仮排水路上部の打設中で、左右岸への重機の移動ができないため、打設設備（グラウンドホッパー、ダンプトラック、バイバック、バックホウ）を2セット使用していました。（写真－8）

非常に狭い作業エリアの中で、整然とコンクリート打設の作業が進められ、普段ダム現場を見たことがない青森県内在籍会員からは、機械化施工が予想以上に進んでいることに感心する声が聞こえました。



写真－8 ダム本体打設状況

6. 終わりに

本研修では、建設部会委員6名の他、青森県内在籍会員4名も参加していただき、非常に有意義な研修とすることができました。

津軽ダムは、既設の目屋ダムに近接しての施工という特殊条件の中で、ELCM・RCD工法といったダムの合理化施工が採用されており、高度な機械化施工を実感することができました。

最後に、研修会の開催にあたり、国土交通省 東北地方整備局 津軽ダム工事事務所の湯川工事課長、上林建設専門官および間・西松特定建設工事区共同企業体の志賀所長、長井機電課長、他皆様から多大なお世話を賜りました。この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。



写真－9 右岸展望台での記念写真



大震災に思う



前企画部会長 菅原 次郎

新年が明けたにも拘らず、歳神様には申し訳ないが、昨年の大震災以降、多くの人達が未だ避難生活を余儀なくされている現状をふまえ、この紙面での新年の慶賀は控えさせていただきますことをご容赦願います。

ところで私事で恐縮であるが、昨年11月末日に(株)I H I インフラシステムを退職いたしました。多くの先輩諸兄には在職中一方ならぬ御厚誼を頂きましたことを、心から御礼申し上げます。なお今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

これを書いているのは会社を退職して間もない時なので、まだ実感はない。一体何をすべきかは決まっているのだが、準備期間と言ったら良いだろうか。ともかく身の回りを整理整頓しなければ次の行動は起こせない。まるでごみ溜めの様だとは家人の評である。何もそこまで言わなくたってと言いつ返したが……家人のいうとおりである。

現在の心境は例えるならば、皆様の^{じんしゅく}掣轡を買うのを取えて承知の上で白状するが、就職後初めて長期の夏休みを頂く様な、ワクワクと浮かれた気分とでも言おうか、ごみはその浮かれ気分を吹き飛ばすには十分に余りある惨状で、当分退屈はしない。

少し前から簡易式の国産ガイガーカウンターを手に入れて持ち歩いている。東京や大阪は感知しなかったが、福島は感知する。宮城も微量だが感知する。この実態を鑑みると、福島の若いお母さん達がわが子のことを心配し、心ならずも夫を残し、故郷を後にするのは無理からぬことの様にも思える。安心して故郷にいるには余りにも関係機関その他が、隠し事が多すぎたのではないかなという気がするのは私だけの感想だろうか。結局それは地元の人々、否日本中の国民の期待と信頼を裏切る結果になっていることを、関係者は大いに反省する必要があるであろう。

除染をすればいいのは分かっているが、それは生易しいことではないと思う。山の汚染は取り除けないし。雨が降り水が流れれば低地はまた汚染濃縮されるのである。正式な発表は無いが、広島原爆の数十倍、あるいはそれ以上ともいわれる汚染物質の放出量だったといわれる。一体どうなのだろうか。

震災当時一番不思議だったのは、水素爆発直後に、日本のマスコミが一切報道しないのに、遠いヨーロッパはドイツのテレビ局ZDFが天気予報で日本地図を放映し、当日の汚染物質が風により、日本の上空でどう拡散しているか、またその後どう拡散するのかを予測している様子を衛星テレビでみたときである。あれはまさに日本から各国に送られたデータを、反原発の立場を明確にしているドイツ政府から日本国民にメッセージを送ってきたとみるのは穿った見方であろうか。日本が自国民に一切公表していないことを認識したうえでの、強い意思表示であったと考えられなくもない、勿論真実は不明である。

テレビが出たついでに脇道にそれた議論で申し訳ないが、新聞その他のマスコミの突出した報道には時として辟易としてしまうことがあるのは私だけなのであろうか。一番気になるのは選挙期間中の各候補に関する報道である。投票日前に具体的名をあげ、候補者の選挙期間中の運動の様子を、公平に報道するならまだ問題はなく許せるが、投票日前だというのに各候補者の有利不利を伝える報道である。それは報道の仕方にもあるが、有権者に対して何らかの恣意的行動を行っていると思えるのである。有権者にとって雑音であるばかりか、正当に行使する選挙権を妨害することにも繋がるともいえる例さえ見受けられる。

そのほかにもマスコミの売らんかなと言わんばかりに思い入れたっぶりの報道は、往々にして記事の対象にされた人を無慈悲に傷つけていることがあるような気がする。最近各地で冤罪事件が取り沙汰されているが、もしも冤罪が事実だとしたら、真実を知りもしないマスコミが司直の言葉即ち意図的恣意的にリークされたかも知れない取材源を用い、さんざん騒ぎ立てて無罪の人を^{おとし}貶めた過去の報道姿勢は犯罪にならないのであろうか。

報道の自由の名を借りて人権無視を行っていることは、憲法違反にはならないというのだろうか。第一にマスコミというのは公平な報道を旨としなければならない筈ではなかったか。それとも現在の社是にはその様な条項は無いというのだろうか、もしもそうならそんなマスコミはもはや信に足るものではない。これも例えて申し訳ないが、日本が太平洋戦争に突入した昭和の始め頃、マスコミはどんな役目を果たしたというのだろうか。世界情勢を確に調べもせず、軍の独走に手を貸したことにはならないのだろうか。また戦時中の嘘の大本営発表を信じ込まされた神国日本の臣民ほど可哀相な国民はないのではなかったか。しかしそれでも当時は仕方がないといえる。なにしろ日本は開国から僅か70年程の概ね国際感覚の自覚が混沌とした発展途上国であったのだから。情報を共有できる近代において公共の範たるべきマスコミが国民を不遜にも恣意的に誘導しようなどとはもっての外…紫色の菊の花である。

話変わって、我が家にはいわゆる座敷犬(チワワ)が二匹いる。犬は家族として家人に認識されている。犬も自分たちが犬だとは認識していないように見える。一匹はオスでどっしりと構えて簡単には吠えない。女性が好きらしく知らない人にも愛想よくシッポを振るので、ファンが直ぐできる。もう一匹はメスで吠える。いわゆる無駄吠えである。男女の別なく知らない人と見れば猛烈に吠えるので他人には好まれない。しかし家人に対しては従順で呼べばすぐ来るし、お手など芸を教えるにはうってつけの柔軟さが認められるのである。吠えるというのは番犬には必須の素質であり、家人には最も信頼が厚いのであるが、他人からは頗る疎んじられる。

二匹とも人間が食べているものを欲しがり、無視すると「ハフッ」と大きく息を吐く、催促である。そういうときは普段与えているドッグフードには見向きもしない。あるとき仕方なく米のご飯をやったら喜んで食べ始めたのはいいが、そのうちメスの様子が急変し苦しげにしていたが、やがてハウスに引っこんで出てこなくなった。呼んでもじっとしているので、一晚様子を見ようということになった。翌朝呼びかけるとよろよろと出てきた。しかし前日より良化していないどころか、呼吸が弱く虫の息である。人を見つめる目がいかにも助けてと言わんばかりに訴えかけている。胴体に耳を当てて聴診すると不整脈である。すぐ獣医さんに駆けつけ

ることにした。

ところが行く途中の交差点で停車中のことである。犬に気付き窓を覗き込んだオッサンがいた。いつものように見知らぬオッサンに対してメスが威嚇を始めた。時々こちらを振り返りながら。すわ曲者発見というわけだが呼吸困難でか細い声、健気ではある。ところがオジサンが窓を敲いたからたまらない。犬は乱気になり猛然と吠え始めた。「ヒョンヒョン」相変わらず声は出ない。しかしややすると突然「げほっ」という声とともに何かを吐きだした。昨日のご飯である。同時にワウワウと大きな声が出た。そのまま病院に連れて行っただが勿論異状なしである。飼料誤嚥による気道閉塞とやらで危険な状態だったのだそうな。むだ吠えが気になっていたが、その習性が本人（犬）には反って幸いしたようである。

今回の震災に遇われた被災者の皆様は取るものも取り敢えず、避難した方方が大部分であった。ペットにかまっている暇はなかったことと察する。避難生活が長期になるに及んでペットを見に行き、悲惨な結果に泣き崩れているある福島県民の姿がテレビで放送されていた。人とペットを一緒にするなんて何と不謹慎なことよと思う向きの方もあるかもしれないが、一緒に生活する者にとっては、れっきとした家族なのである。自分も今回の震災に遇ってペットをどう帯同するかを本気で考えた瞬間があったことを白状することを許していただきたい。なんとなれば犬には人間ほどではないにしろ感情を持っていると感じる時が多々あるからである。怒っている瞬間、飼い主に噛みついたりはしないが眉が逆ハの字になるし、抱かれるとあたかも笑っているような表情を見せ、粗相のあとなどにきつく叱られたり、旅行でブリーダーに預けに行き、離れるときなどは涙を流すのである。恥ずかしいことではあるが家族同士の言い争いなどがあると、分が悪い側を察知して慰めに寄り添って来て舐めたりもするのである。（犬公方ならぬ犬バカの領域に入ってしまうのでこの辺にしておくが）

というわけで犬を帯同するというのは公設の避難所には入れないことを意味するし、公共交通機関も利用し難くなる。そうすると他の避難者と同じに行動することは極めて困難になるのである。如何に他人に迷惑が掛からないように迅速に行動するかが大事ではないかと思った次第である。津波については故郷釜石では、「てんでんこ」という言葉が伝承されており、地震が起きたらまず自分が真っ先に高台に向かって逃げなさい、各人がそれを実行することが最も被災による悲惨な犠牲者数を少なくすることだと教えられてきた。通常の予測可能な洪水や降雪や土砂災害とは違う。しかし中には種々の理由で逃げる事が出来ない人がいる。その人たちのためには普段から安全な手段を確保し、施設はその様な場所に設置するしか術はないのである。

避難誘導する立場の警察や消防、役場の人、病院、その他の施設でも例外ではない。悲惨な殉職はあってはならないことと認識すべきである。その様なことをさせずに済む環境を整えなければならないのである。コストは人命に優先させることではない。ついでながら地震規模の大小は関係ないとも教えられている。明治29年の三陸大津波は地震としては小さいものだったそうである。伝承はものの本によれば150年程度で忘れられてしまうものとか。情報の共有化や、高度管理が進んでいる今、忘れられてしまうようなことがあってはならない。きちんと防災対策と課題を子孫に伝えていく、それが現代科学をわきまえた者達の努めに他ならないであろう。

情報化施工(建設ICT)ゼミナールを開催しました

技術部会長 深堀 哲男

(社)日本建設機械化協会東北支部では、情報化施工の概要と導入のメリットを広く普及させ、ご理解をいただく事業活動を実施しております。平成21年2月に夢メッセみやぎ及び多賀城市内において、講演と実技研修を開催、平成22年10月には秋田県にかほ市金浦地内で施工中の道路工事現場内で、研修会を実施しました。また、平成22年度の新技术情報交換会では、「情報化施工特集」として取り上げ、最新の技術論文を発表していただきました。

さて、国土交通省の情報化施工の取り組みについては、平成22年8月に「情報化施工技術の一般化、実用化の推進について」が通達されています。これまでの情報化施工に関する試験施工の実績や技術の普及状況を踏まえ、既に技術的に確立し平成25年度の一般化に向けて普及措置を講じる技術と、引き続き実用化に向けて検討を行う技術について具体的な推進方策が示されています。

1. 平成25年度に一般化する情報化施工技術

- ・トータルステーション(TS)による出来形管理技術
- ・モーターグレーダによるマシンコントロール

2. 早期実行化に向けて検討を進める情報化施工技術

- ・TS/GNSS(衛星測位システム)による締め固め管理技術
- ・ブルドーザによるマシンコントロール/マシンガイダンス技術
- ・バックホーによるマシンガイダンス技術

3. 一般化・実用化の推進を図るための措置

- ・発注者指定型工事、施工希望型工事の必要な費用の計上
- ・総合評価落札方式における情報化施工の評価、工事成績評定における評価

など、積極的な実施方針が示されており、この施工技術の習得は急務となっております。

これらの背景と会員からの要望に基づきゼミナールを開催しました。内容については次のとおりです。

日時	学科講習会	平成23年11月30日	9:30~11:30
	実技・体験講習会	平成23年11月30日	13:30~16:00

場所	学科講習会	宮城県名取市文化会館
	実技・体験講習会	宮城県名取市下増田(仙台空港近隣)



モーターグレーダの講習会



ブルドーザの講習会



タイヤローラの講習会



学科講習会

使用テキスト 情報化施工ガイドブック (社)日本建設機械化協会)
情報化施工の実務 (社)日本建設機械化協会)
参加者数 約60名
C P D 建設系C P D (5.0 p) 交付数 33通

学科講習内容

学科はパソコン (パワーポイント) とプロジェクターにより行われ、当支部技術部会長の挨拶のあと5テーマについて技術発表がありました。

①「情報化施工に関する話題」

東北地方整備局企画部機械施工管理官 柴田 松雄 様

②「総合評価時代の情報化施工」

(株)トプコンソキアポジショニングジャパン仙台営業所 木村 淳 様

③「マシンコントロール (ブルドーザ、モーターグレーダ)」(ガイドブック第3章参照)

西尾レントオール(株)測器仙台センター 佐藤 徳康 様

④「マシンガイダンス (油圧ショベル・振動ローラ (転圧管理))」(ガイドブック第2章・第4章参照)

(株)アクティオ道路機械事業部 吉川 晃 様

⑤「T S 出来形管理」 (ガイドブック第5章参照)

福井コンピュータ(株)営業本部土木測量事業推進室 田中 正規 様

実技・実機体験講習内容

体験用建設機械機としてブルドーザ・バックホー・モーターグレーダ・タイヤローラの4台を準備、最新出来形管理機器一式を現場に配備、5班に班編成し、それぞれの体験コース上で全員が全てを体験できるように工夫しました。

現場では途中冷たい雨がちらつく寒さでしたが、みな熱心に取り組み、情報化施工技術を肌で感じた受講者が多かったようです。

今回のゼミナールは盛会裡におりましたが、開催に関してご協力いただいた東北地方整備局始め関係各社に対し厚く御礼申し上げます。



実機体験講習会開会式



バックホーの講習会



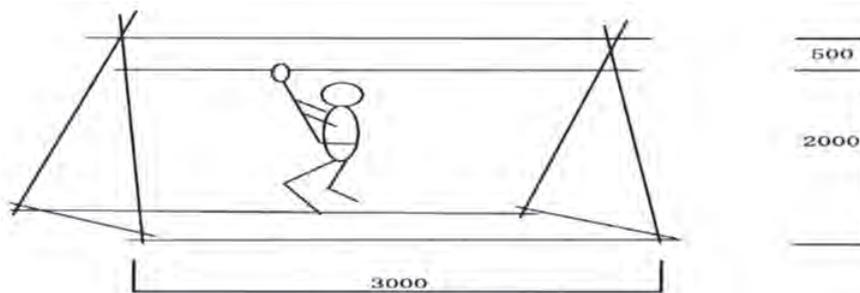
出来形管理講習会

安全コーナー

安全体感を実施せよ!!

前田建設工業株式会社 東北支店 馬場 操

はじめに、東日本大震災の復旧工事に関する労働災害（休業4日以上死傷災害）が、10月末までの間に375人に達し、うち18人が尊い命を落としていることが厚生労働省の調査で分かりました。そのなかで建設業関係は292人（全体の77.8%）、うち死亡14人で墜落・転落災害が8人を占めていました。建設業で被災した292人の「経験期間」について目立つのは、経験年数6ヵ月以下の20人のうち14人が震災が発生した3月11日以降に建設業に入職した「新規参入者」でした。建設業に入職して1ヵ月で死亡した人は、年齢が10代で、瓦屋根の修復工事中、屋根で滑って足場の隙間から墜落というものでした。このようなヒューマンエラーによる災害が少しでも減少できるように、安全週間を利用して各種体感実験を行い、普段口頭でしか説明できないことを目の当たりにすることで安全に対する意識向上を図れた事例を紹介しますので参考にさせていただけたらと思います。



※工期中朝礼台横に設置する。

○安全週間 6日間 体感の日実施要領

- ① 安全帯 ぶら下がり体験 全員体験 朝礼後随時
 - 1) 上図のようなぶら下がり台を作成する。
 - 2) 安全帯に全体重がかかった時の状態を体験し、身体への負担を経験する。
- ② 安全帯墜落実験 全員体験 15:00~
 - 1) 全員の安全帯を点検する。(朝礼後)
 - 2) 不良品のサンプルを抽出する。(もしくは事前に用意する。)
 - 3) 朝礼広場に足場を設置する。(3段+手摺)
 - 4) 足場に安全帯(ベルトを掛ける。)を固定。(3段目)
 - 5) フックに錘をつける。
(錦江の布バックにクランプを入れ重量を80kg位にする。クランプ0.8kg/個→100個)
 - 6) 錘を落下させる。→安全帯が切断する。(予定)
- ③ ヘルメット落下実験
 - 1) 朝礼広場に足場を設置する。(3段+手摺)
 - 2) 下にヘルメットを置き、足場3段目から鉄筋D25を落下させる。
 - 3) 損傷の状況を全員に観察させる。
- ④ 安全帯の適正設置高さを確認
 - 1) H=2000の作業床を作成(③の足場を利用)
 - 2) 2段階の高さから安全帯をぶら下げる。
腰の高さ
足元
 - 3) フックにタイヤ等を取付落下させる。
 - 4) それぞれの落下位置を確認し、安全帯は腰の高さで使用することが良いことを確認する。

⑤ バックホーの死界を確認

- 1) バックホー設置
- 2) 死界になるところにカラーコーンを設置する。
- 3) 運転席に座ってカラーコーンを確認する。
- 4) 外からと運転席からの見える範囲を比べて死界を体感する。

体感実験実施状況

1. 安全帯ぶら下がり体験



2. 安全帯墜落実験



3. ヘルメット落下実験



4. 安全帯の適正設置高さを確認



5. バックホーの死界を確認



平成23年度 第4回建設施工研修会(技術映画会)開催

(社)日本建設機械化協会東北支部では、事業活動の一環として各種の工事記録や施工法などを紹介し、最近の建設施工技術についてご理解を深めるため映画会を開催しております。

平成23年度は11編の貴重な映像記録を入手し、建設施工研修会を開催しました。

今回はCPDプログラム(3.0単位)対象となり、参加申請は200名を超えました。しかし、実際の参加者は160名で、CPD証明書も殆どの方が交付を受けました。

映画会の概要は次のとおりです。

日 時 平成23年 8月 1日 13:30～

場 所 フォレスト仙台第1フォレストホール

入場料 無料

CPD 建設系CPD(3.0p) 交付数 160通

映画会プログラム

1. 【ペルシャンブルーの海で…】

パームジュメーラ海底道路トンネルプロジェクト 26分 提供 大成建設(株)

2. 【海峡をつなぐ夢】

ボスポラス海峡横断鉄道トンネル 26分 提供 大成建設(株)

3. SD工法を用いた硬岩トンネルの掘削

— 紀宝トンネル — 14分 提供 (株)奥村組

4. 柏崎洗浄工事記録(柏崎刈羽原子力発電所)

14分 提供 (株)間組

5. 電磁誘導システム(NEIシステム)

9分 提供 (株)NIPPO

6. 主要地方道

大坂中央環状線道路改良工事(その1) 13分 提供 (株)技研製作所

7. 余部橋梁さらなる100年へ

20分 提供 清水建設(株)

8. 音が見える熊谷組の『音カメラ』

6分 提供 (株)熊谷組

9. 静的締め固め砂杭工法「SAVEコンポーザー」

～締め固めを静に～ 9分 提供 (株)不動テトラ

10. 大径・高品質の深層混合処理工法

「CI-CMC工法」 9分 提供 (株)不動テトラ

11. 建設系産業廃棄物処理RTシステム 次世代マニピレータに

よる廃棄物分離・選別システムの開発 15分 提供 東急建設(株)

支部行事

企画部会

日時：平成23年8月5日(金)
場所：支部会議室
出席者：鈴木基行支部長他6名
内容：①60周年記念事業について
②60周年記念誌の発行について
③60周年記念事業実行委員会たちあげについて
④その他

■運営委員会

日時：平成23年12月12日(月)
場所：K K R ホテル仙台
出席者：鈴木基行支部長他18名（うち委任状6）
内容：①平成23年度上半期活動状況
②平成23年度下半期活動について
③新公益法人への対応について
④その他

広報部会

日時：平成23年7月13日(水)
場所：東北支部会議室
出席者：元木委員他3名
内容：①支部たより161号の編集について
②161号の原稿収集状況について
③60年史の編集方針について
④栗子トンネル現場見学会について
⑤60周年記念行事の役割等について

日時：平成23年7月28日(木)
場所：東北支部会議室
出席者：菅野公正部会長他3名
内容：①支部たより161号最終校正
②60周年記念誌発行について
③その他

日時：平成23年8月29日(月)
場所：支部会議室
出席者：浅野公隆委員他5名
①支部たより161号の反省点
②支部たより162号の編集計画について
③支部創立60周年記念事業について
④支部創立60周年記念誌発行計画につ

いて

- ⑤平成23年度現場見学会の実施について
- ⑥本部機関誌「建設の施工企画」への投稿計画について

日時：平成23年12月16日(金)
場所：支部会議室
出席者：菅野公正部会長他4名
内容：①支部たより162号編集計画について
②支部創立60周年記念誌の編集計画について
③60周年記念誌の資料収集について
④その他

施工部会

日時：平成23年7月15日(金)
場所：東北支部会議室
出席者：稲村正弘部会長他10名
内容：①平成23年度除雪講習会開催一覧表について
②第1回部会の議事録確認
③「道路除雪の手引き」改訂について
④パワーポイント資料の改訂・修正事項について
⑤その他

日時：平成23年8月4日(木)
場所：東北地方整備局会議室
出席者：道路情報管理官ほか13名
内容：①平成23年度除雪講習会・講習実施計画(案)について
②除雪講習委員会審議（J C M A関係者退場の後）
イ) 平成23年度除雪講習会・講習実施計画の確認について
ロ) 除雪機械運転資格基準にかかる除雪講習について
ハ) 除雪講習委員会規定について

日時：平成23年8月10日(水)
場所：東北支部会議室
出席者：稲村正弘部会長他8名
内容：①平成23年度除雪講習会開催一覧表について
②整備局との打合せ結果について
③「道路除雪の手引き」改訂について
④パワーポイントの改正事項について
⑤その他

日 時：平成23年9月20日(火)
 場 所：東北支部会議室
 出席者：稲村正弘部会長他11名
 内 容：①平成23年度除雪講習会開催一覧表の変更について
 ②平成23年度パワーポイントについて
 ③「道路除雪の手引き」の改訂について
 ④その他

日 時：平成23年9月26日(月)
 場 所：東北支部会議室
 出席者：山田事務局長他4名
 内 容：①平成23年度情報化施工講習会プログラムについて
 ②時間割について

日 時：平成23年9月27日(火)
 場 所：東北地方整備局会議室
 出席者：佐藤勝美企画施工課長補佐他3名
 内 容：①平成23年度情報化施工ゼミナール開催計画について
 ②カリキュラムおよび時間割について
 ③実演機械持ち込み等
 ④その他

■除雪講習会

青森	平成23年9月29日(木)	253名
弘前	平成23年9月30日(金)	175名
新庄	平成23年10月6日(木)	181名
天童	平成23年10月7日(金)	239名
秋田	平成23年10月12日(水)	239名
横手	平成23年10月13日(木)	358名
会津	平成23年10月13日(火)	189名
奥州	平成23年10月20日(木)～21日(金)	328名
岩手	平成23年10月25日(火)～26日(水)	498名
仙台	平成23年11月4日(金)	201名
	合計	2661名

■情報化施工

日 時：平成23年11月8日(火)
 場 所：名取市民文化会館・下増田現場
 参加者：山田事務局長・山崎参与の2名
 内 容：情報化施工講習会会場現地調査

日 時：平成23年11月17日(木)
 場 所：名取市民文化会館・下増田現場
 参加者：山田事務局長・山崎参与の2名
 内 容：情報化施工講習会会場現地調査

日 時：平成23年11月24日(木)

場 所：名取市民文化会館・下増田現場
 参加者：山田事務局長他3名
 内 容：①情報化施工講習会会場現地調査
 ②名取市文化会館打合せ

日 時：平成23年11月30日(水)
 場 所：名取市民文化会館・下増田現場
 参加者：60名
 内 容：①情報化施工講習会（学科名取市文化会館）
 ②情報化施工講習会（実技・体験名取市下増田）

日 時：平成23年12月6日(火)
 場 所：東北支部会議室
 出席者：稲村昌弘他17名
 議 題：①平成23年度除雪講習会実施結果報告について
 ②平成23年度除雪講習会反省点について
 ③その他

技術部会

■技術施工講習会（映画会）

日 時：平成23年8月1日(月) 13:30～16:30
 場 所：フォレスト仙台
 参加人数：150名
 題 名：①パームジュメーラ海底道路トンネルプロジェクト（大成建設株）
 ②ボスポラス海峡横断鉄道トンネル（大成建設株）
 ③SD工法を用いた硬岩トンネルの掘削（株奥村組）
 ④柏崎洗浄工事記録（株間組）
 ⑤電磁誘導システム（NEIシステム）（株NIPPO）
 ⑥大坂中央環状線道路改良工事その1（株技研製作所）
 ⑦余部橋梁さらなる100年へ（清水建設株）
 ⑧音が見える熊谷組の『音カメラ』（株熊谷組）
 ⑨静的締め固め砂杭工法「SAVEコンポーザー」（株不動テトラ）
 ⑩大径・高品質の深層混合処理工法（株不動テトラ）
 ⑪建設系産業廃棄物処理RTシステム（東急建設株）
 （次世代マニピレータによる廃棄物分離・選別システムの開発）

建設部会

日 時：平成23年 7月 5日(火)
場 所：東北支部会議室
出席者：佐野真部会長他 6名
内 容：①平成22年度活動報告（最終）
②「支部たより」安全コーナー（161号、162号担当決定）
③特殊工事見学会現場選定

日 時：平成23年10月11日(火) 16：00～
場 所：支部会議室
出席者：佐野真部会長他 4名
内 容：①平成23年度活動計画について
②「支部たより162号」安全コーナーについて
③特殊現場見学会について
④60周年記念誌について

日 時：平成23年10月18日(火)
場 所：津軽ダム工事事務所
参加者：佐野真部会長他 9名
内 容：工事現場見学

EE東北関係

EE東北作業部会

日 時：平成23年 7月27日(水)
場 所：フォレスト仙台第 6 会議室
出席者：山田仁一事務局長他20名
内 容：①EE東北11の概要について
②夢メッセみやぎの状況について
③EE東北開催に関するアンケート結果について
④EE東北実施方針について
⑤EE東北11予算案
⑥その他

EE東北実行委員会

日 時：平成23年10月17日(月)
場 所：フォレスト仙台第 7 会議室
出席者：山田仁一事務局長他29名
内 容：①EE東北11の概要について
②EE東北11の予算（案）について
③EE東北開催に関するアンケート結果について
④EE東北実施方針について（案）
⑤夢メッセみやぎの被災状況について
⑥その他

建設機械施工技術検定試験関係

日 時：平成23年 8月19日(金)～23日(月)
場 所：多賀城市日立建機(株)構内

	種別	1 級	2 級	合計
受験者数	1 種	26	49	75
	2 種	48	187	235
	3 種	9	7	16
	4 種	32	21	53
	計	115	264	379

会員消息

所在地変更

(株)西島製作所仙台支店

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央 2 丁目 9 番
27号 プライムスクエア広瀬通13階
TEL 022-223-3971 FAX 022-261-1782

日本自動機工(株)東北支店

〒981-3125 宮城県仙台市泉区みずほ台11番 3 号
ワタナベビル105号
TEL 022-375-3855 FAX 022-375-3859

日立造船(株)東北支社

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央一丁目 6 番
35号 東京建物仙台ビル 7 階
TEL 022-712-6066 FAX 022-712-6070

新規入会会員

(株)建設システム

代表取締役 栗田 富夫
〒417-0862 静岡県富士市石坂312-1
TEL 0545-23-2600 FAX 0545-23-2601

(株)佐々木建設工業

代表取締役 佐々木 重雄
〒030-0843 青森県青森市浜田豊田365
TEL 017-721-3555 FAX 017-721-3556

(有)東陽建設

代表取締役 太田 勝
〒035-0004 青森県下北郡東通村蒲野沢字十二沢
7 番 1 号
TEL 0175-27-2166 FAX 0175-27-2167



謹賀新年



平成24年元旦

本年も(社)日本建設機械化協会東北支部をよろしくお願い申し上げます

東北支部長 鈴木 基行

副支部長	赤沼 聖吾	技術部会長	深堀 哲男
副支部長	佐村 勝彦	施工部会長	稲村 正弘
企画部会長	阿部 新治	建設部会長	佐野 真
広報部会長	菅野 公正	技術委員長	高橋 弘
	事務局長	山田 仁一	

編集後記

新年おめでとうございます。

3.11東日本大震災から早や10か月が過ぎました。今年の正月は復興元年にふさわしくすばらしいご来光に輝き、大きな力を得たことと思います。

支部たより162号をお届けします。ご多忙のなかで寄稿いただいた執筆者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

さて、寒さが最も厳しくなる前の小寒。この日をもって「寒の入り」となり、寒中見舞のはがきが訪れるようになります。大寒もまじかで、「寒の内」は、1年で最も気候の寒い季節でもあります。

この時期、武道では寒稽古が行われます。又、凍り豆腐、寒天、お酒、お味噌など寒気を利用した食物が仕込まれる時期でもあります。「一陽来復」。必ず冬が終わり春が来ます。

この冬は、目いっぱい不精をして引きこもってれば、春にはそれこそ幸運が訪れ、元気にもなりますよ。東北人のど根性を見せてやろうではありませんか。

(菅野 公正)

